

日整連、第43回「整備需要等の動向調査」を発表

景況感は改善するも、来期については 厳しい見方が大勢を占める



日本自動車整備振興会連合会（日整連）は9月11日、第43回「整備需要等の動向調査」の集計結果を発表しました。今回の調査は2017年7月時点のもので、全国の専業認証237、専業指定387、ディーラー指定326の計950工場から回答を得ています。

それによると、2017年1～6月の総売上高DI*は+10.6で、前期（2016年7～12月、-3.2）に比べて13.8ポイント上昇しています。業態別に見ると、専業認証は19.5ポイント上昇し-20.7、専業指定は19.6ポイント上昇し+5.4、ディーラーは2.3ポイント上昇し+39.2となりました。同期の総在庫台数DIは+2.0で、前期（-6.2）に比べて8.2ポイント上昇しています。業態別ではディーラーが12.5ポイント低下して+16.9となりましたが、専業認証が18.6ポイント上昇し-19.0、専業指定が19.0ポイント上昇し+2.3となっています。

両DI共に上昇した要因について日整連

は、「整備需要のベースとなる継続検査台数が増加（3年前の消費増税前の駆け込み需要と、5・7年前のエコカー補助金による需要）したため、今期は主として車検入庫台数及び車検整備売上高が増加した」と分析しています。また、ディーラーの入庫台数DIが低下した要因については、「リコールの対象台数が前年に対し減少していることから、今期はリコールによる入庫台数の減少が影響した」と推測しています。

2017年7～12月期の予想総整備売上高DIは-19.4で、前期（2017年1～6月、-7.1）に比べて12.3ポイント低下しています。業態別に見ると、専業指定は1.7ポイント上昇し-15.8となりましたが、専業認証は5.3ポイント低下し-36.7、ディーラーは34.5ポイント低下し-11.1でした。

同期の予想総在庫台数DIは-19.0で、前期（-6.8）に比べ12.2ポイント低下しました。業態別では、専業指定が2.8ポイント上昇し-14.2、専業認証が4.5ポイント低下し-35.0、ディーラーが35.9ポイン

ト低下し-13.2でした。業績予想が両DI共に低下した理由について、日整連は「来期は継続検査台数が減少する見込み（3年前は消費増税後の反動減、5・7年前はエコカー補助金終了後の需要減）であり、これが低下予想の要因になっていると考えられる」とコメントしています。

整備業界全体の景況感DIは-44.8で、前回調査時（-50.5）より5.7ポイント上昇しました。景況感DIは前期に続き2期連続での上昇となりましたが、未だに大幅なマイナスで推移しており、依然として多くの事業者が業界の景気を悪いと感じていることが浮き彫りとなりました。今後業界内において、入庫促進や整備事業による売り上げアップだけではなく、新規事業の開始などによる経営基盤の強化を目指す動きが加速する可能性もあるでしょう。

第43回「整備需要等の動向調査」集計結果

		直近半年間の実績		今後半年間の業績予想	
		総整備売上高	総在庫台数	総整備売上高	総在庫台数
専業認証	プラス成長 (%)	21.9	22.4	14.8	14.8
	マイナス成長 (%)	42.6	41.4	51.5	49.8
	DI	-20.7	-19.0	-36.7	-35.0
専業指定	プラス成長 (%)	36.7	33.3	21.4	23.8
	マイナス成長 (%)	31.3	31.0	37.2	38.0
	DI	+5.4	+2.3	-15.8	-14.2
ディーラー	プラス成長 (%)	60.4	48.2	29.1	28.5
	マイナス成長 (%)	21.2	31.3	40.2	41.7
	DI	+39.2	+16.9	-11.1	-13.2
合計	プラス成長 (%)	41.2	35.7	22.4	23.2
	マイナス成長 (%)	30.6	33.7	41.8	42.2
	DI	+10.6	+2.0	-19.4	-19.0

		景況感
専業認証	かなり良い (%)	0.0
	やや良い (%)	7.2
	やや悪い (%)	48.5
	かなり悪い (%)	15.6
	DI	-56.9
専業指定	かなり良い (%)	0.5
	やや良い (%)	7.2
	やや悪い (%)	46.8
	かなり悪い (%)	12.9
	DI	-52.0
ディーラー	かなり良い (%)	1.2
	やや良い (%)	14.7
	やや悪い (%)	40.2
	かなり悪い (%)	3.4
	DI	-27.7
合計	かなり良い (%)	0.6
	やや良い (%)	9.8
	やや悪い (%)	44.9
	かなり悪い (%)	10.3
	DI	-44.8

*DI = プラス成長（景況感 DI では「かなり良い」 + 「やや良い」）と回答した事業者の割合 - マイナス成長（景況感 DI では「かなり悪い」 + 「やや良い」）と回答した事業者の割合

NGP組合員探訪

【第8回】
中四国支部 (その1)

今回は全国 142 社 186 拠点の NGP 組合員の中から、中四国支部に所属する 4 社をご紹介します。

(株) 福山セコ



NGP代表
藤原 庸正

1962年1月に創業し、今年で55周年を迎えました。NGPに入会したのは1987年1月で、使用済み自動車の解体、リサイクルパーツの販売をはじめ、タイヤ販売、廃タイヤの処理、またトラック、バス、重機、農機具等の海外輸出を行っております。

当社の主な商圏は広島県の東部全域です。迅速な対応を心掛け、これからも整備・修理工場の皆様に喜んでいただけるように販売やサービスの充実に向け努力致しますので、よろしくお願ひします。

【所在地・お問い合わせ先】

広島県福山市曙町4-6-7
TEL : 084-953-3201 FAX : 084-920-2015
<http://www.ngp.gr.jp/k801/>

クレストパーツ



NGP代表
中村 昌徳

1977年3月に創業し、NGPグループへは1987年1月に加入しました。岡山県倉敷市を軸に、商品形状の精到なチェックで生産された商品を細心梱包で全国へお届けしています。

また地元の自動車整備振興会の賛助会員として、お客様と一緒に各種のイベント行事に参加したり、地域ボランティア活動に協力しながら親交を深めております。

お客様自身が選べる、選択型の商品のご提案を心がけ、お客様のご要望に沿って、ご満足いただける商品をお届けできるよう、社員一丸となって努力して参ります。

【所在地・お問い合わせ先】

岡山県倉敷市水島明神町5-20
TEL : 086-446-2041 FAX : 086-440-0250
<http://www.ngp.gr.jp/k802/>

(有) 山陰UP販売



NGP代表
金山 栄達

当社は1980年に創業し、その後1987年にNGPグループへ加盟して、「捨てる」時代から「使う」時代へとビジネスを展開して参りました。

適正なりサイクル処理を通して環境貢献に取り組み、ニーズに沿ったリサイクルパーツを提供できるよう、技術・知識の向上に努めています。循環型社会の「輪(わ)」と、お客様と調和のとれた良い信頼関係を築くため、人と人の繋がり「和(わ)」を大切にする会社でありたいと考えます。NGPグループの仲間、そしてお客様から「この会社があって良かった」と思っただけのよう社員一同、精一杯努力して参ります。

【所在地・お問い合わせ先】

島根県安来市吉佐町2
TEL : 0854-23-2466 FAX : 0854-23-9001
<http://www.ngp.gr.jp/k803/>

(株) 佐伯商会



NGP代表
佐伯 孝雄

1965年に創業し、1993年にNGPグループへ入会致しました。その後1997年に有限会社から株式会社へ変更し、2002年に現在の小村工場へ移転しました。

当社は高松市を中心に香川県全域を商圏としております。また、最近ではインターネットを経由した一般ユーザーからの依頼も増えており、丁寧な対応と説明を心がけることで、より多くのユーザー様にご支持頂けるように日々努めています。

これからも当社のモットーである「人・車・環境にやさしい」を実践して参りますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

【所在地・お問い合わせ先】

香川県高松市小村町148-3
TEL : 087-840-3133 FAX : 087-840-3155
<http://www.ngp.gr.jp/k804/>

【第9回】

持続可能な社会の実現を目指した
NGPの環境への取り組み

NGPは、使用済み自動車の適正処理と再資源化によって、「循環型社会」の構築を目指しています。今回は地球環境保全に向けたNGPのおもな取り組みを紹介します。

ISO14001 認証取得

ISO14001とは国際標準化機構（ISO）が定めた環境マネジメントシステムの国際規格で、Plan（方針・計画）、Do（実施）、Check（点検）、Act（是正・見直し）のPDCAサイクルを繰り返し、環境マネジメントのレベルを継続的に改善していくことを基本的な構造としています。

NGPでは組合員全体でISO14001の認証取得を推進しており、各社の事業内容や地域特性を考慮して、省エネルギー、リサイクル・廃棄物抑制、大気・水質汚染防止等の環境改善活動に組織的・継続的に取り組んでいます。

リターナブル梱包材の活用

NGPではリサイクル部品を配送する際、再利用可能なリターナブル梱包材を活用することで資源の消費を削減し、環境保

全に努めています。現在はドア、バンパー、エンジン用のリターナブル梱包材を開発・運用しており、今後は他のパーツ類への運用も検討しています。

自動車リサイクル部品産学共同研究会

NGPは、富山県立大学及び明治大学と共同で、リサイクル部品を使用することによるCO₂削減効果について、研究を行っています。

今年、リユース部品「40部品」に対するCO₂削減効果の調査が完了したことで、現在NGPの主要売れ筋部品「90部品」（全部品販売点数の91.4%）においてCO₂削減数値の算出が可能となりました。

産学共同研究会では現在、その他リユース部品とともにリビルド部品のCO₂削減効果についても調査研究を進めています。

今後も研究会の取り組みを通じてリサイクル部品の利用を促進し、地球温暖化防止に向けたCO₂排出量の削減を啓蒙していきます。

エコプロへの出展

NGPは国内最大の環境・エネルギー展示会「エコプロ（2016年に改称。2015年まではエコプロダクツ）」に2006年より11年連続で出展しています。リサイクル部品の環境貢献や品質を来場者に訴求することで、リサイクル部品の利用促進とそれによる環境負荷低減に取り組んで参りました。

今年12月7～9日に東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催される「エコプロ2017」にも続けて出展を予定しており、自動車リサイクル部品やNGPの活動内容を、幅広い層の来場者へアピールする計画です。

ISO14001認証取得組合員会社数 ^{*1}	108社
リユース部品利用に伴う年間CO ₂ 削減効果 ^{*2}	35,475トン
リターナブル梱包材利用に伴う年間CO ₂ 削減量 ^{*3}	111.6トン

*1 2016年10月1日時点

*2 2016年4月～2017年3月の合計値。自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の50品目（左右ある部品を含むと64品目）を対象に算出した数値です。

*3 2016年4月～2017年3月の合計値。リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

NGP組合員
かわら版

日頃ご愛顧いただいております整備・修理工場の皆様へ感謝の気持ちを込めて
「NGP30周年ありがとうキャンペーン」
第二弾、開催中



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合は9月1日～11月30日（当日消印有効）までの3ヵ月間、30周年ありがとうキャンペーン第二弾となる「NGP年末ジャンボ感謝祭2017」を開催中です。

前回同様、期間中NGPのリユース部品1点ごとに必ず添付されるギャランティシールを5枚集め、キャンペーン告知チラシ裏面の応募用紙に貼り付けてご応募いただきますと、抽選で合計130名の方に「年末ジャンボ宝くじ」をプレゼント致します。

応募用紙は各NGP組合員より皆様に

配布するほか、当組合Webサイト（<http://www.ngp.gr.jp/30th>）からダウンロードすることも可能です。

お一人様何口でもご応募いただけます。皆様からのご応募をお待ちしております。

プレゼント内容

- 1等：年末ジャンボ宝くじ300枚.....10名様
- 2等：年末ジャンボ宝くじ100枚.....10名様
- 3等：年末ジャンボ宝くじ30枚.....10名様
- 4等：年末ジャンボ宝くじ10枚.....100名様

NGP 今月のCO₂削減量



リユース部品利用に伴うCO₂削減量

平成29年8月： **2,761t**



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

平成29年8月： **5.8t**

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の50品目（左右ある部品を含むと64品目）を対象に算出した数値です。

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

NGP組合員 かわら版

第30回経営者研修会を開催 経営者に必要な知識と見識を習得

第30回経営者研修会が8月25～28日までの4日間、BumB（ぶんぶ）東京スポーツ文化館（東京都江東区）で開催されました。

経営者研修会は、財務や税務などの企業会計に関する知識やコンプライアンスへの意識、事業計画書の作成などについて学ぶことで「経営者としての見識を高める」ことを大きなねらいとしたものです。また、挨拶訓練など社会人の基礎を再度見直し、経営者として会社を導くために必要な能力を再確認するためのカリキュラムも設けています。

1日目、講師として登壇した大橋岳彦相談役は、NGPの歴史や近年の業界動向について解説しました。また、自身が

経営者研修を受講したときの経験に触れ、「研修の中で時間を掛けて真剣に事業計画を考えた時間は非常に勉強となり、今でも良い経験だったと実感しています。皆さんもぜひ自分の会社をしっかりと見つめ、しっかり事業計画を立てていただきたい。その経験は、今後必ず役に立ちます」と、受講生を激励しました。

4日目の修了式で、(株)吉田商会の布藤勝広さんは「取締役としての自覚を持ち、事業を継続させること、拡大させることに全力を注ぎます」と、今後の業務に向けた決意を表明しました。(有)西川商会の西川朋宏さんは「研修期間中、多くの方から会社の経営についてのお話を聞き、悩みを聞いていただけたこと



受講生を激励する大橋岳彦相談役



が大変良い経験となりました」と、組合員同士で各種情報の交換ができたことに喜びを感じています。

車検切れ車両の取り締まり強化へ

国土交通省、街頭検査に可搬式「ナンバー自動読取装置」を導入

国土交通省は車検切れ車両の取り締まり強化を目的として、街頭検査に可搬式「ナンバー自動読取装置」を試験導入すると発表しました。走行する車両のナンバーから車検切れ車両を瞬時に判別する同装置を活用することで、公道で捕捉した車検切れ車両のドライバーに対して停車を促し、直接指導・警告することが可能となります。国土交通省は2017年度内に全国5カ所で試行し検証を行い、2018年度から本格導入・運用する計画を示しています。

9月15日に国土交通省(東京都千代田区)の駐車場で実施された公開デモンストレーションで、奥田哲也自動車局長は「車検切

れ車両は安全性への懸念もさることながら、自賠責保険が切れている可能性も高く、早期に是正を図る必要があります。ナンバー自動読取装置の導入により、簡易に多様な



公開デモンストレーションを視察する国土交通省自動車局・奥田哲也局長(中央)と、同局整備課・平井隆志課長(左)

場所で車検切れ車両の判別が可能となるため、そのような車両の走行に対する抑止力にもつながると考えています」と、同装置を導入する意義を強調しました。



ナンバー自動読取装置。カメラで撮影したナンバーから車検切れ車両を捕捉し、モニター上に情報を表示する

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
<http://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
<http://www.ngp.co.jp/>

Topics